

新たな夢へ米留学

【東京支社】東日本大震災で両親、姉、祖母の家族全員を失った釜石市箱崎町出身の小川彩加さん(18)は、24日から米国に留学する。日米の官民による「トモダチ構想」の一環で実現した。一人ぼっちになり、ぼつぜんとする小川さんを支えたのはルース駐日米大使ら数多くの人の出会いだった。「運命のように奇跡的な人のつながりがあった」。一人一人に感謝し、新たな夢に向かう。

家族失った 小川さん(釜石出身)

東京・渋谷のビルのさんは「チャンスを生一室。被災した若者をかそうというオーラが教育面から支援する」ある」と評する。

ヨンドトゥモロー(東京)の事業で、英語研修に励む小川さんの笑顔がある。

留学先はミシガン州学校が午前中で終わるグレナーバーの全寮制の高校。1年間英語を勉強し、ファッションデザイナーを目指す。午後2時46分、激しい揺れの後、美千代さん。指導する阪本麻友の車で逃げた。

トモダチ構想で実現 出会い支えに生きる



米国出発を前に、阪本麻友さんから英語の指導を受ける小川彩加さん(左)＝東京・渋谷

坂道の途中で、黒い山道を登った。人壁のような波が背後に迫ってきた。津波だ。は見えない。大勢の美千代さんの一言が、母の言葉を聞く最後と。車を下りて走

震えながら歩き、2人で、尊敬していた。涙得たチャンスがある。の名を叫んだ。釜石の家は流されていた。避難所を経て親類宅に身を寄せ、姉美慶さんが亡くなったことを知った。

遺体安置所で対面した美慶さんは、生前のままのきれいな顔だった。弱者に思いやりがあった20歳の優しい姉

何週間も遺体安置所を回り、他の家族を捜す手紙を携えて米国大使館に父一志さんと祖母孝子さんは秋にDN面会し、夢を直接伝えA鑑定でようやく確認できた。岩間さんも見つかつたが、美千代さんと祖父喜一さんは行方不明のままだ。

「なぜ自分だけ助かったんだろう」。自問自答する日々の中、元気づけられたのは昨年5月にルース大使が被災地の児童生徒を公邸に招いたイベントだった。ファンの歌手ジャスティン・ビーバーさんと話ができ

「私がたくさんの方からきつかけやチャンスをももらったように、私も与える側の人間にしたい」。今春高校を卒業し、4月、ルース大使の公邸で決意を披露した。亡き家族の思いを胸に、夢をかなえることが応援してくれる人への恩返しと信じている。

◆恩返しを誓う

6月、ルース大使が大穂高を訪れ、一緒に炊き出しをした。大使は「将来どうするの」と案じてくれた。漠然と就職するつもりだったが、今後の生き方を考えるようになった。